

# 北海教区 東日本大震災支援活動

## 幹事報告 (報告者：日向恭司)

今後の有効な支援のあり方を探るため、教区の支援委員会からの派遣を受けて、3月27日(日)22時発の寝台特急はまなすと東北新幹線を乗り継いで、28日(月)、久世そらち教区議長と一緒に、JR盛岡駅の近くにある奥羽教区事務所を訪問し、午後は北上教会で行なわれた岩手地区牧師会に陪席してきました。

### 奥羽教区事務所

普段、奥羽教区事務所には主事補1名が常勤、主事の松浦裕介牧師は週1日の出勤、他に1名が週2~3日のパートで働いているのだと伺いましたが、震災後はフル出勤で朝8時には業務が始まっているのだそうです。

わたしたちが到着後も事務所の電話と松浦主事の携帯電話がひっきりなしにかかってきます。電話対応の後、「あれ？今何をしようとしていたんだっけ？」と困惑する場面も何度かありました。こういう時、「大丈夫ですか？…お体に気をつけて下さい。…お祈りしています。」というご挨拶のお電話は、その気持ちは嬉しいとしても、かえって働く人たちの仕事の手を止めて、時間を奪ってしまうのだということを目の当たりにしました。

電話は、祈りと挨拶のためにではなく、具体的に行動するための問い合わせに使っていただきたいと思いました。

### 支援物資の仕分け作業

今後の被災者支援について、北海教区が協力できることをいくつかお伝えした後は、事務所に届けられた支援物資を玄関から、仕分けと保管をしている2階の部屋に運び、仕分け作業にも加わりました。

ほとんど仕分けされていない段ボールが部屋いっぱいに置かれていましたが、物資はこれからも送られてきます。棚を作って上に積み上げていく工夫が必要であると思いました。棚作りをしたかったのですが、時間がなく断念しました。仕分け作業のボランティアも28日から本格始動のようで、朝から3名ほど、その後人数が増えて仕分け作業が進められました。

まず必要とされているのが下着です。段ボールを開けて、下着の分類をします。男性用・女性用・子供用……次に送る時は、そういう分類が済んだ状態で送ろうと思いましたが。1つの箱の中にいろんな種類の物資が入っているよりも、中身は1種類だけという箱で送られると、現地の作業がとても楽になります。

### ガソリン給油の長蛇の列

岩手地区の牧師会に陪席するために、松浦主事の車に便乗させていただき、北上教会まで1時間強かけて向かう途中、何度も「本日終了」と立て札のあるガソリンスタンドと、営業中で数十台の車が長蛇の列を作って順番待ちをしているガソリンスタンドを見ました。

日常生活のため、仕事のため、避難のため、救援活動のため、支援物資を配送するため、支援物資を受け取りに行くため、ガソリンを買いに行くため……何をするにも「ガソリンが足りない」と頭を抱えます。

牧師会の帰り、ふと列のないガソリンスタンドがあったので、とっさに立ち寄りしました。看板には「ガソリンが無くなり次第、完全閉店」と書かれてありました。在庫のガソリンが無くなったらお店の閉鎖ということでしょうか…。1L=172円…近隣のスタンドよりも17円ほど高い値段です。北海教区の支援募金からガソリン代を出しました。「久々に満タンになりました！」と喜んでおられました。

### 岩手地区牧師会

2011年3月28日(月)13:30~16:30 会場:北上教会

出席者 中原眞澄 松浦裕介 井上智 三浦洋一、小林功生 生島陽子 邑原宗男 山元克之、山下光、小田島久子、村上義治

陪席者 白戸 清(奥羽教区北東地区) 太田春夫(東京教区北支区) 雲然俊美(教団書記) 久世そらち 日向恭司(北海教区)

#### 1. 津波で大きな被害を受けた3つの教会について

3教会ともNTT固定電話は通じない。

##### 宮古教会

会堂 170cm 一階浸水 牧師館 120cm 浸水

水は来ている 電気ガスは来ていない

教会の方たちの家を片付ける手伝いをしているが、片付け・処分は本人の許可を得て進めるため、なかなか進まない。

#### 新生釜石教会

一階の天井に水が達し、二階への階段の一番上の段まで。教会員が1人行方不明だったが見つかった(教会員全員無事)8名5件のお宅が津波被害、そのうち家屋倒壊が4件。流れて来た車が、教会に寄せて来て、片付けができなかった。水に浸かった礼拝堂は見た目大丈夫そうに見えるが、踏むと不安定で使えそうにない。柳谷先生は、教会に訪ねて来る方のケアに忙しくしている。柳谷先生が動きやすいように牧師を支える牧師が必要 釜石はネットワークができていて、宿泊も手配しやすい。

#### 大船渡教会

牧師交代期。弘前西教会の牧師に来る予定を早めていただいた。街ごとに方針が違う。大船渡は基本的には町外からの支援を受け付けない。

## 2. 外から来られるボランティア受入れについて

- 支援の拠点を、奥羽教区事務所、花巻教会 土沢教会の3カ所とする。
- 食事・寝具・移動手段(ガソリン)ボランティア保険 は自己責任で準備して来ていただく必要がある。
- ボランティアの期間をはっきりとしてほしい。いつからいつまで何人か。
- 避難所には山のように物がある。しかし、同じものが人数分ないので配れない。仕分け作業では箱の中の品物と個数がわかるとありがたい。
- 教区事務所では電話対応のボランティアも必要
- 公的ボランティアにも認知していただく必要がある。
- その他として、避難受入の連絡もあるが、避難先があまり遠隔地だと、地元とのつながりが絶たれてしまう不安がある。また避難先から地元の人に人を探しに行きたいという希望もある。

花巻教会 ボランティアの食事には手を出さない。20名のボランティアの拠点として受け入れ可能。すでに8名が入っている。(宿泊はホテルをとった)

土沢教会 6~7名のボランティア受け入れが可能。

## 3. 他教区による支援について

### 教団による支援

12 日朝、支援委員会が立ち上がった。前回の常議員会で 13~16 日石原議長他 4 名で被災地を視察。救援募金 ドイツから1億円の献金があった。阪神大震災の支援募金の余り 6000 万円 新潟中越地震から 200 万円が対策費用に使える。常任常議員会で、支援本部を立ち上げた。教区で、「この教会は被災教会だ」と指定していただくと教団としてうごきやすい。

### 東京教区北支区による支援

北支区と奥羽教区の交流が昨年始まったが、昨年訪ねたところが全部被害を受けた。奥羽教区を支援しようという気運が高まっている。福島原発の近くから人が避難するための受け入れ先を組織的に作る必要がある。

### 北海教区による支援

日本中の支援の意識が福島や仙台に向かう傾向があり。北海教区としては奥羽教区への支援を担当すべきという理解がある。教区内で、ボランティアとして働ける人のリストを作成中。牧師 2 名(伊藤大道・長井美歌)はすぐにでも送れる可能性がある。避難して来た人の受け入れ先も募集中。

### まとめ

- ・ 牧師をサポートする牧師が必要。地区の牧師会で中心となって、お互いに支え合う仕組みを作るべき。牧師が走り回る間、留守を守る人が必要。牧師は相談を受ける必要がある。地区内の牧師が協力するのは大変だが、相談する信徒は、顔の知っている牧師でないと話せないことがある。また牧師を休ませることは必要だが、まだ、牧師はそこから離れられない。
- ・ 北海教区・北支区の牧師の協力は、教区事務所で受けて、地区に発信する
- ・ 被災教会の牧師サポートの担当は以下のとおりとする。  
新生釜石(柳谷)は、三浦洋一、  
宮古(森分)は、井上智  
大船渡(村谷)は、山下光

※ 後日、奥羽教区より要請をうけて、北海教区から興部伝道所の伊藤大道牧師が大船渡教会に1週間程常駐して現地の支援に当たることが決定しました。 以上。